[新刊紹介] 知床の植物II, 育ててみたい山野草春, 育ててみたい山野草夏・秋, 新北海道の花, 小原敬先生著作集, 知るほどに楽しい植物観察図鑑, 伊豆須崎海岸草木列伝, 伊豆須崎海岸草木列伝, 日本の野菊

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 杏子, 鳴橋, 直弘, 清水, 建美, 植之原, 耕治, Sato, Kyoko, Naruhashi, Naohiro, Shimizu, Tatemi, Umenohara, Koji メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00053336

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

新刊紹介

○ 斜里町立知床博物館編：**しれとこライブラリー⑦知床の植物Ⅱ**　A5判，238頁．2007年1月9日．北海道新聞社．1,890円．

本書は，2005年に世界自然遺産に登録された知床の自然や歴史をテーマとした「しれとこライブラリー」シリーズの7冊目で，山地や海岸の植物，植物と野生動物との関わりについてまとめられている紹介本である。シリーズ⑥の「知床の植物Ⅰ」では高山植物とシダ植物について紹介されているが，本書では海岸の植物，森林の植物，希少植物の生活史，知床のスミレ，見分け図鑑―知床のセリ科とツツジ科―，植物と動物，の6つの章に分けて知床の植物が紹介されている。

特定の地域を対象とした植物図鑑にありがちな植物のカラー写真と簡単な説明の添加にとどまらず，知床に生育する植物の特徴，現在までの学術的知見とその歴史，保護・保全活動が紹介され，非常に濃い内容となっている。しかしながら，予備的知識のあまりない読者にも対応した平易な文章で，知床の植物の魅力を十分に感じることができる。各章末に挿入されたコラムもわかりすく大変面白い。

また182～209頁の見分け図鑑では，知床のセリ科とツツジ科について，わかりやすい図を使った簡易検索図が掲載され，これを参考に初心者でも知床の植物の同定を試みることが可能になっている。この本を片手に知床に足を運び，ぜひこの目で植物を同定してみたいと誰もが思うに違いない。　（佐藤杏子）

○ 硲　美仁（編集）･久志博信（監修）：NHK趣味の園芸ガーデニング21　**育ててみたい山野草　春**　AB判，128頁．2007年3月20日．日本放送出版協会．1,300円．

○ 小此木　香（編集）･久志博信（監修）：NHK趣味の園芸ガーデニング21　**育ててみたい山野草　夏・秋**　AB判，128頁．2007年7月20日．日本放送出版協会．1,300円．

上記2書は，山野草の植物ごとの栽培の仕方を解説した本である。

早春として，イチリンソウ，オキナグサ，セツブンソウ，ユキワリソウ，春として，イカリソウ，エンレイソウ，オダマキ，シラネアオイ，ツツジ，テンナンショウ，バイカカラマツ，ハンショウヅル，ヤマシャクヤク，名人講座として，コバイモ，アツモリソウが取り上げられている。夏としては，サギソウ，シャジン，センノウ，ユリ，ヤマアジサイ，レンゲショウマ，秋としては，アキギリ・アキチョウジ，キキョウ，ダイモンジソウ，ナンバンギセル，ホトトギス，マツムシソウ，キクが解説されている。個々の植物によって多少の差はあるが，多くは，苗の選び方，置き場所，水やり，肥料，病虫害の駆除，摘心，植えつけ・植え替え，ふやし方，タネまき，株分けなどが，写真や絵を加えながら解説されている。野外植物を採集し，実験に供するために栽培しなければならない者には役に立つ本である。　（鳴橋直弘）

○ 梅沢　俊：**新北海道の花　Wild Flowers of Hokkaido**　B6判，462頁．2007年3月25日．北海道大学出版会．2,940円．

北海道の植物写真家で知られる梅沢さんが，この程，新版の「新北海道の花」を出版されました。

花の色により黄色やオレンジの花，白い花，赤・ピンクや赤紫の花，青や青紫の花，緑やクリームの花，目立たない花の6つのグループに分けられていて，花や実のアップや近似種を見分けるポイントとして比較写真なども掲載されています。初心者から上級者まで満足できる一冊です。　（清水建美）

○ 神奈川県植物誌調査会：**小原敬先生著作集**　A4版，280頁．2007年4月20日．神奈川県立植物誌調査会．1,500円＋送料．

本書は，神奈川県で植物を研究されている小原　敬氏の経歴と彼の著作を集めた本である。

巻頭部の“刊行によせて”として12人の方の文章があり，それらによって小原氏の経歴と人柄を知ることができる。本編は，私の植物事始め，小泉　敬先生略歴，小泉　敬先生著作目録（研究論文，地域への貢献），主要人名索引，謝辞・編集後記からなる。

彼はロシア語に堪能であるらしく，多くのロシア語の文献を読破されて，「年刊平和学園」に“日露植物交流をめぐって”，「日本の生物」に“外国人による日本の植物研究”，「神奈川自然誌資料」に“神奈川県の植物研究史”を，それぞれ連載で詳細に書かれている。158頁にLinnéをリンネではなく，リネーであること，それを貝類学会の大山　桂氏より聞かれたことがでている。この本は，小原　敬氏の業績集と見なされるが，有益で非常に教えられることが多い本である。

入手希望者は，〒250-0031　小田原市入生田499　神奈川県立生命の星･地球博物館内　神奈川県植物誌調査

会　事務局田中徳久　(TEL 0465–21–1515　FAX 0465–23–8846　E-mail tanaka@nh.kanagawa-museum.jp) へ申しこまれるとよい。　(鳴橋直弘)

○ 本多郁夫：**知るほどに楽しい植物観察図鑑**　B 5 判，168 頁．2007 年 5 月 31 日．橋本確文堂．2,520 円．

本書は，カタクリ，アセビ，ヒメカンスゲ，マムシグサ，ムラサキケマン，ミヤマキケマン，シャガ，ヒメシャガ，オオバコ，テイカカズラ，スズサイコ，ホタルブクロ，ヤマホタルブクロ，クサギ，ヘクソカズラ，コオニユリ，オニユリ，ハマゴウ，サギソウ，ミソハギ，コバノギボウシ，オオニガナ，サワギキョウ，ミズアオイ，ススキ，オギ，デンジソウ，アメリカネナシグサについて解説している。写真がきれいで判り易く，これまでにないスタイルの図鑑である。例えば，冒頭のカタクリでは名前の由来について，実験で確かめ幻想的な写真で納得できる成長過程のほかに葯，蜜腺，花被片，種子などを 24 枚の写真によって丁寧に説明するとともに，囲み記事によって「エライオソーム」と「スプリング　エフェメラル」の用語説明をしており，植物の初心者にも配慮している。説明に使用した文献を植物ごとに明記しており，上級者にも有用である。アサガオなどの蔓植物については，右巻き，左巻きに関する従来の説明・解釈に加えて，最近の考え方を，著者の得意とする写真を用いて説明している。写真を用いた説明は非常に判り易い。植物について，これから学ぼうとする生徒・学生はもとより，植物に造詣の深い方々にまで幅広くお勧めする図鑑である。　(植之原耕治)

○ 近田文弘：**伊豆須崎　海岸草木列伝**　A 5 判，271 頁．2007 年 6 月 10 日．トンボ出版．2,940 円．

本書は，伊豆半島の先端近くにある須崎半島（静岡県下田市）に生育する海岸植物を主として取り上げ，カラー写真を入れて解説している。

本は，はじめに，目次，第 1 章　伊豆須崎の植物への誘い（須崎の風土，昭和天皇の須崎御用邸の植物調査，須崎の植物相），第 2 章　四季の植物（春の植物 37 種，夏の植物 55 種，秋の植物 29 種，冬の植物 10 種），おわりに，引用・参考文献，より構成されている。

国立科学博物館を中心に平成 13 年から 5 年間に亘って実施されたプロジェクト研究「相模湾およびその沿岸地域における動植物相の経時的な比較に基づく環境変遷の解明」を行うなかで，観察や解明された植物についても述べられている。例えば，新種のハマラッキョウ，新変種のハマミツバアケビ，ソナレフモトスミレ，オオウラシマソウ，カイガンマサキ，アツバケンポナシ，イソカゲオカトラノオ，ソナレガマズミ，ハマホタルブクロ，シオカゼノアザミ，トゲサンショウ，ソナレアキノタムラソウ，ハマオケラ，ハマツルボ，新品種のケナシヒメハギ，シロバナハマナデシコ，フチナシガクアジサイ，サトノイバラ，ミドリイズカモメヅル，ホシザキハマサオトメカズラ，シロバナオオムラサキシキブ，モモイロイズアサツキ，ウスイロキツネノカミソリ，ハヅキアシタバ，ムラサキヒヨドリジョウゴ，ハマシラヤマギク，カワリツワブキ，新雑種のウスギハマカンゾウ，学名新組み合わせのヤエザキキツネノボタン，アラゲサンショウ，学名新ランクのハマタカトウダイ，ソナレマツムシソウ，ハマシャジン，新分布記録のオキナワバライチゴ，オオシマツツジ，である。写真はクリヤーできれいで，読んでいて楽しい本である。　(鳴橋直弘)

○ いがりまさし：山渓ハンディ図鑑 11　**日本の野菊**　A 5 変型判，280 頁．2007 年 9 月 20 日．山と渓谷社．2,940 円．

本書は，日本の野外で見られる野菊，つまりキク属，シオン属とそれらの類似植物を取り上げ，カラー写真を中心にして書かれたハンディな解説書である。

巻頭部に目次，キク科のなかの野菊，野菊の各部の名称，本書の使い方，があり，本編はキク属（p. 9–82），シオン属（p. 83–234），その他の野菊（p. 235–247），で，巻末部に野菊の種とは何か，野菊の学名はなぜ変遷するか，亜種と変種の命名規約，野菊と染色体，野菊の花期，野菊と蛇紋岩，レッドデータの野菊，伊東左千夫の野菊，菊の起源と歴史，野菊を撮る，北海道の野菊の見分け方，奄美大島や沖縄の野菊の見分け方，参考文献，学名索引，五十音総合索引からなる。

現地での生態写真は迫力のあるものが多く，花序の変異，花序の断面図，総苞や葉形の写真，茎や葉上の毛の状態図が随所に見られる。日本での分布図もあって役に立つ。総苞片，冠毛，葉，分布などを使用した類似植物の見分け方はわかりやすくて良い。野菊に関心のある人にはなくてはならない 1 冊である。

(鳴橋直弘)